# 国内看護学雑誌を対象にした引用文献調査

塩田純子
東京医科大学看護専門学校図書室

**目的：**　看護教育では 4 年制大学・大学院の設置による高学歴化が進み、ここ 10 年の間に看護学会誌が相次いで創刊されている。また、臨床においても看護研究が浸透し、病院内外での研究会も活発に行われるようになっている。看護師の情報ニーズの傾向を捉える一視点として、国内看護学雑誌の引用文献調査を行い、調査結果を今後の図書館運営と蔵書構成の参考に用いたいと考えた。

**調査対象：**　2002 年(度)発行の、日本学術会議登録団体の「看護系学会誌 15 誌(A 群)」と、看護師の職能団体である日本看護協会が開催する「日本看護学会論文集 9 分科会誌(B 群)」の計 24 誌に掲載された原著・調査研究報告の引用文献(参考文献を含む)を対象とした。対象とした論文ならびに引用文献数はA群からは182論文3149件、B群からは707論文4411件であった。

**結果：**

1)　第一著者の所属と著者数

A 群では 90%近くが教育機関所属者である。B 群では 80%が病院所属であった。平均著者数は A 群で 2.9 人、B 群で 4.1 人であった。

2)　引用資料の言語と形態

和文献の割合は A 群では 68.7%、B 群では 97.8%であった。形態別にみると雑誌・紀要は A 群 71.0%、B 群 68.4%、図書は A 群 25.2%、B 群 28.9%で両群とも雑誌利用が多い。

3)　引用雑誌文献の年齢

引用文献を発行順に集計した。全体の 50%に達するまでは、A 群では和雑誌 5 歳、外国雑誌 9 歳である。B 群では和雑誌 4 歳、外国雑誌 14 歳であった。

4)　雑誌タイトルの分散

引用数をタイトル別に集計し、50%を超えるまでの雑誌タイトルは A 群で和雑誌 36 タイトル、外国雑誌 63 タイトルであった。B 群では和雑誌 23 タイトルであった。雑誌分野は A 群では 30%が看護学分野以外なのに対して、B 群ではすべてが看護学雑誌であった。

5)　引用図書の分野

引用分野の上位をみると、A 群では看護学 34%、医学 19%、心理学 19%となっていた。B 群では看護学 45%、医学 22%、心理学 17%であった。

**まとめ：**　和雑誌の引用雑誌タイトルは、A・B 群ともに集中した利用傾向がみられた。特に臨床看護職が多い B 群においては看護学雑誌の引用に集中があった。A・B 群 50%中のどちらにもリストされた雑誌は 14 タイトルで、今回の調査におけるコアジャーナルといえる。

引用図書を見ると、専門の看護学以外においては、医学と並んで心理学関係の利用が多く、社会学関係の図書も引用されていた。看護学の情報支援においては心理学・社会学にも目を向ける必要性が示された。